

令和元年度 施策評価検証シート

評価年月日 令和元年8月6日

			部会名	暮らし部会	
施策No.	2-4-1	施策名	生活相談の充実	施策主管課	市民生活総合相談センター
施策の目指す姿		日常生活の悩みや問題が少なくなっています			
<p>■ 施策評価シート(平成30年度実績評価)について</p> <p>「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check=評価」⇒「Action=見直し」が機能しているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「(前年度評価時の今後の方向性)」において、「出前講座が有効な手段である」としながら、「(反映状況)」には記載がなく、取組の状況が見えない。 ・「(反映状況)」の2つ目について、「SOSネットワークを活用し、情報共有を図った」と記載があるが、取組の結果が不明である。「SOSネットワーク」について説明した上で、「情報共有して効果的に注意喚起を行った」などと記載してはどうか。 <p>「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「◎前年度の評価の振り返り」や「6 施策の総合的な評価」において「出前講座が有効な手段である」としながら、「出前講座」の回数が減っている。その要因を分析したうえで、ホームページなどの活用へシフトしたり、受け身ではなく積極的に出向いたりすることを検討、記載してはどうか。 <p>「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「関係機関と情報共有している」との記載では、情報共有によりどういう効果があったのか不明である。「市においては、関係機関と情報を共有し、被害や予兆電話があった際には・・・で注意喚起をしている」という記載にしてはどうか。 <p>「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「(課題)」としては、「出前講座」の回数や受講者の減と、広報やSNSでは伝わらない状況であることへの対応があげられるべきではないか。 ・その上で、「(今後の方向性)」において、受け身ではなく積極的に出向いたりすることを検討することにつなげてはどうか。 ・「(課題)」、「(今後の方向性)」ともに、施策の「現状と課題」2つ目の「全ての住民には伝わらない状況」に対応するような記載とすることで、「施策の目指す姿」の達成につながるのではないかと。 <p>●シート記載内容全般について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「情報共有を『図った』』といった記載では何をしたのか、何につながったのかが伝わらないため、「情報共有し、〇〇した」など具体的に記載した方が良い。 					